

# 1893年から1934年における バドミントン協会の役割と組織の在り方の変容について

鷗木千加子 (甲南大学)

## The Badminton Association - transformation of its role and way of federating in the period 1893 - 1934

IKARUGI Chikako  
(Konan University)

### Abstract

The purpose of this study is to examine how the role as well as way of existence of The Badminton Association (hereafter referred to as the BA), the first association of badminton in the history, was transformed in the period of 1893-1934, since the establishment of BA until the establishment of International Badminton Federation. It also examines the transition of its international functions, for which the former had been responsible, to the latter.

The result of this study is summarized as follows.

The BA was established in 1893 by the badminton clubs in the South West England for the purpose of standardizing the rules set by each club and promoting the game. It increased the number of its affiliated organizations by activating badminton under the Laws of Badminton. Within England, local spontaneous activities were boosted and led the autonomous clubs to affiliate with the BA through its county associations. This brought the BA to establish its substantial role as a national organization within England. In 1921, the BA established its Regulations for the County Associations and clarified its federating structure as a national organization in England.

On the other hand, the BA also expanded its affiliated organizations beyond England. In the early days of the BA federation, the interactions beyond borders of nations initially existed through personal networks. In 1899, the Ireland Badminton Union (hereafter referred to as IBU) was established as a national organization which could set its bye-laws in compliance with the Laws of Badminton and the Regulations of the Badminton Association. Through this establishment, international matches were organized from 1903; however, these matches were limited to being organized within the British Isles until the 1920s. In the late 1920s, other national organizations came to be established outside the British Isles and the international activities were conducted under the jurisdiction of the BA. Hence, the BA had substantially undertaken the role of an international organization.

With expanding domestic activities within England as well as increased international exchanges, with qualitative changes in its affiliated organizations, and also with quantitative alternation of its affiliations in numbers and areas, the BA, under its dual roles as a national association of England as well as an internationally operating organization, had expanded each of its functions. In dealing with obstacles and discontents that arose in its federation, the BA had solved these by amending the Regulations of the Badminton Association in order to adjust appropriately to the actual situations. As a result, the BA itself found that it was no longer "an association" that connected its affiliated organizations under its initial "purposes." Therefore, the BA clearly stated in its Regulations reflecting its actual operations.

As described above, the BA, which was initially established to standardize the Laws of Badminton and to widely promote badminton, had transformed itself into an organization inhering two roles of a national organizing body within England, as well as an international federating organization, following the widely promotion of badminton under the Laws of Badminton.

## はじめに

1934年、バドミントンにおける競技規則の管理・運営と国際的な運営を行う国際競技連盟として、国際バドミントン連盟 (International Badminton Federation : 以下IBFとする)<sup>1)</sup> が設立された。それ以前にこの役割を担っていたのは、1893年に誕生したバドミントン協会 (Badminton Association : 以下BAとする) であった。BAは、ローカルルールを統一し、バドミントンを普及させることを目的に設立された。設立メンバーはイングランドの南西部のクラブに限られていたが、その後ブリテン諸島内外へと加盟団体が広がり、それに伴いBAの果たす機能も大きく変化していった。

IBF設立を提案したのはBAであった。設立会議の開催案内には、「現在BAによって行われている競技規則Laws of Badmintonの管理・運営を含め、国際的な機能をIBFに渡し、BAはイングランドのナショナル組織としてIBFに加盟する」<sup>2)</sup> と書き添えられている。つまり、この時BAは、イングランドのナショナル組織と国際的な運営組織の二つの役割を果たしていることを自覚した上で、国際的な機能を移管するためにIBF設立を提案したのである。では、なぜ、統一された競技規則とそれによるバドミントン活動を運営するために設立されたBAが、自らその役割を手放すことにしたのだろうか。BA設立後にバドミントンの活動はいかに広がり、BA自身はどのように変質したのだろうか。

バドミントンの歴史研究において、BAに関する検討はほとんどなされていない。蘭によって進められた初期のバドミントンに関する研究は、競技規則の変化に着目している。初期のバドミントンは、他のゲームの影響を受けながら、楽しむためのローカルルールが考案されては淘汰統一されるという流れの中で作られた。そうした流れを汲むBAの競技規則は、1901年迄に現在のような競技規則<sup>3)</sup> とほぼ同様の内容に改訂されたと報告されている<sup>4)</sup>。このことから、BAは一定の競技志

向をもつバドミントンを運営していたと考えられる。しかしながら、蘭の言及は競技規則の内容に留まっており、バドミントンの活動やBAの運営に関しては触れられていない。

BAに関する記述があるバドミントンに関する著作では、S・M・マシS. M. Masseyが初期のBA運営に関わった彼自身の経験に触れている<sup>5)</sup>。また、B・ユーバーB. Uber、P・デイビスP. Davis、B・アダムスB. Adams等の著作においても、BAの設立や大会開催等の活動に関する記述がある<sup>6)</sup>。ジャン＝イブ・ギランJean-Yves Guillainは、ユーバー等の著作、BA公式機関誌、その他のゲーム・スポーツに関する書物を丹念に調べた上で、広く史資料を求め通史研究をまとめている<sup>7)</sup>。ギランは、大会開催の広がりやブリテン諸島を超えた交流活動について詳細に触れているが、BAの運営に関する分析や考察は行っていない。

よって本研究では、BAの設立からIBFが設立されBAが担っていた国際的な機能を移管するまでの期間 (1893-1934年) を対象に、大会開催等の活動の変化、国際的な交流の変化、BA運営の変化について、BA議事録<sup>8)</sup>、BA公式機関誌<sup>9)</sup> 等を史料として実証的に明らかにすることにより、BAの役割と組織の在り方の変容を検討することを目的とする。なお、BAは議事録や機関誌において、イングランド、アイルランド、スコットランド、ウェールズのブリテン諸島内のネーション及びブリテン諸島以外の国等<sup>10)</sup> の間で行われる試合をインターナショナルマッチ (以下、ナショナル対抗戦とする) としていることから、分析の際には、ブリテン諸島内の各ネーション及びブリテン諸島以外の国等における運営組織をナショナル組織として分析の枠組みに用いた。

本研究の構成を示すと、まず第一章で、BAによる統括のはじまりの状況について検討する。第二章では、競技規則の浸透に伴い、BAの果たす役割がイングランド内外において拡大する中で、BAに加盟するイングランド内のカウンティ協会に自立的運営組織としての権限が与えられ、イン

グランドのナショナル組織としての運営体系を確立する過程を検討する。第三章では、BAの国際的な運営組織としての役割が拡大する中で、イングランドのナショナル組織であり、かつ国際的な運営組織としての運営体系を確立する過程を検討する。以上の検討を踏まえて、BAの役割と組織の在り方の変容について考察する。

## 第一章 BAによる統括のはじまり

1893年9月13日、サウスシーのダンバー邸で開催された会議において、参加したイングランド南西部のクラブ9団体の賛同により、バドミンントンの最初の協会組織となるBAの設立が決定した<sup>11)</sup>。BA設立に尽力したサウスシーバドミントンクラブの事務局長であったS・S・C・ドルビー少佐 Major S. S. C. Dolbyが会長、事務局長、財務担当を務め、加盟クラブから選出された8名の執行委員を加えた執行委員会により運営が行われた。BAが取り扱う内容は、競技規則に関する事、その他ゲーム（バドミントン）に関する全ての事であり、BA競技規則によるバドミントンを広く普及させることを目指した<sup>12)</sup>。年次総会は毎年4月末までにロンドンで行われ、加盟団体の承認、翌シーズンの役員選出、競技規則及び協会規約の修正を行った<sup>13)</sup>。

BAの設立により競技規則の統一が進められたが、BA競技規則が浸透するには時間が必要であった。当時の偉大なプレイヤーであり、BA執行委員であったマシは、BAの揺籃期について次のように回顧している。

「第一回全英選手権大会以前には、ほとんどイベントはなく、あってもそれは楽しくはあるが決して満足のいくものではありませんでした。BAは揺籃期にあり、限られたクラブだけが同協会を支援していました。また非加盟クラブが、更に混乱に拍車を駆けるのだが、ルールに重要な条項を書き加えました。」<sup>14)</sup>

例えば、BA設立時には加盟していなかったギルフォードクラブでは60×30フィート、イーリン

グクラブでは44×20フィートのコートを採用していた。また、BA加盟団体であったサリークラブでは、外枠はBAの示す正しい大きさをしていましたが、ネットからフロントサービスラインまでの長さが短かった<sup>15)</sup>。このような不一致は、各クラブにおける施設や人数の違い等の諸事情から決められてきたことであり、とるに足りないものとみなされて競技規則は不明確なまま施行されていた<sup>16)</sup>。このように、1890年代前半までは競技規則の統一は十分に進んでおらず、幅広い交流へと向かう前段階であったと言える。

競技規則の統一過程において、大きな変化が訪れたのは1890年代後半のことであった。1898年にBA承認のもと開催された最初の個人戦であるギルフォードトーナメント大会が成功したことを受け、翌1899年にはBA主催による選手権大会が開催されることになった。また、クラブ間の交流であるクラブ対抗戦は、1899/1900年シーズン（以下シーズンを示す場合は1899/1900年のように表記する）にはBA加盟団体18クラブ（内2クラブがセカンドチームを持つ）により59試合が行われた<sup>17)</sup>。BAに加盟していないクラブの活動は明らかにされていないが、BAにより進められた競技規則の統一は、1890年代末には一定の成果を挙げたとと言える。

## 第二章 拡大するバドミンントンの活動とBA運営の変化

### 1. バドミンントンの活動の変化

競技規則の統一が進んだことは、BA競技規則による選手権大会がより多く、しかもより広い範囲の地域で開催されることに繋がった。1903年にサセックスカウンティ選手権大会が、1906年にサウスイングランド選手権大会が開催されている<sup>18)</sup>。表1は、BAの公式機関誌に掲載告知または結果が記載された大会数の変化である。イングランドにおいて、エリアやカウンティでの選手権大会が徐々に増加していることがわかる。こうした活動の変化について、マシは次のように述べている。

「バドミントンに起こった大幅な進歩は、

1899年のトーナメント大会に遡ることができます。その後多くのトーナメント大会が開催されることになり、その結果、カウンティ組織に加盟するメンバーのためのカウンティ選手権大会を設立することに繋がりました。』<sup>19)</sup>

1908年9月、クラブ対抗戦や選手権大会といったバドミントンの活動が活発になる中、新たな活動が生まれた。マシ、F・W・ヒクソンF. W. Hickson等が尽力したことによって、BAに加盟するロンドンメトロポリタン地区内のクラブにより、首都圏での年次リーグ戦であるロンドンリーグが誕生した。その年のロンドンリーグには5つのクラブ（アレクサンドラパレス、クリスタルパレス、イーリング、リッチモンド、ストレタム）が参加し、シニアの部ファーストチーム及びセカンドチーム、ジュニアの部の3部門で試合が行われた<sup>20)</sup>。ヒクソンは、ロンドンリーグ執行委員会メンバーとして運営に携わっただけでなく、後にBA及びIBFの事務局長を務めるなど、バドミントンの運営に大きく関わった<sup>21)</sup>。ロンドンリーグ設立の様子について、マシは次のように回顧している。

「リーグの結成目的は、試合のプロモートであり、かつ当時問題としていた次のような不適切な事態を是正することになりました。すなわち、プレイヤーが数多くの試合に出場する目的で幾つものクラブに入会するケースです。』<sup>22)</sup>

ロンドンリーグ設立の背景として、時には望ましくないと思われる方法を使ってまでも大会に参加したいという、プレイヤー達のニーズが高まった状況を垣間みることができる。

BAの機関誌に報じられた試合数は、1899/00年から毎年少しずつ増えているが、戦争の影響により1914/15年に激減している。また、その後は一旦休刊となったので<sup>23)</sup>、その間にどの程度の大会が行われたのかは不詳だが、1914/15年よりも開催数がさらに減ることはあっても増えたとは考えにくい。終戦後、1921/22年から直ちに戦前と同

水準の試合数が各地で開催され、そしてその後は国際大会や各種国内大会の開催数を確実に増やし続けた。ここで戦争の前後で大会数がほとんど変わらず、戦争による影響がほとんど認められない点が興味深いが、それはイングランド内が第一次世界大戦の戦地になることを免れたことが一因になったと考えられる。

## 2. 国際的な交流の萌芽

ギランによれば、アイルランドでは1892年にリマバディに最初のクラブが誕生し、1899年にはナショナル組織であるアイルランドバドミントンユニオン（Ireland Badminton Union：以下IBUとする）が設立された<sup>24)</sup>。IBUはBAの競技規則及び規約の下、アイルランドにおけるバドミントンの普及を目的として設立され、アイルランド内のクラブ対抗戦のための細則をおいた<sup>25)</sup>。スコットランドでは、1890年代にはセントアンドルーズに拠点を据えたマックタイアー博士Dr. Mc Tierを中心としてバドミントン活動が行われており、1900年にクラブ対抗戦（セントアンドルーズ対アバディーン）が行われ、1911年にはスコットランドバドミントンユニオン（Scottish Badminton Union：以下SBUとする）がBAの競技規則及び規約の下に設立された<sup>26)</sup>。

20世紀に入ると、イングランド以外の地域においても活発なバドミントン活動が行われるようになった。アイルランド（1902年）、スコットランド（1907年）、フランス（1909年）等でナショナル選手権大会が始まり、北ウェールズ（1911年）、アイルランドのアルスター（1914年）等のようにネーション内のエリアにおいても選手権大会が開催されるようになった。フランスでは、ディエップバドミントンクラブが精力的な活動を行い、1908年11月にはブリテン諸島以外で最初となるトーナメント大会を開催している。この大会には、マシ、G・A・トマス卿Sir. G. A. Thomas<sup>27)</sup>（サウスシーバドミントンクラブ）を含む5名がイングランドから参加し、地元のプレイヤーと対戦している<sup>28)</sup>。ディエップバドミントンクラブは、二

表1 BA公式機関誌に開催告知または結果が記載された大会数

シーズン	インター ナショナル	イングランド	ブリテン諸島 (イングランド除)	その他	イングランド							イングランド以外						
					国	エリア (東西南北)	インター カウンティ	カウンティ	カウンティ より小規模	大学	計	国	エリア (東西南北)	インター カウンティ	カウンティ	カウンティ より小規模	大学	計
1899-1900	0	2	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	1	
1900-01	0	6	2	0	1	0	0	0	5	0	6	1	0	0	0	0	1	
1901-02	0	6	1	0	1	0	0	0	5	0	6	1	0	0	0	0	1	
1902-03	1	9	2	0	1	0	0	1	7	0	9	1	0	0	0	1	2	
1903-04	1	12	1	0	1	0	0	1	10	0	12	1	0	0	0	0	1	
1904-05	0	3	1	0	1	0	0	0	2	0	3	1	0	0	0	0	1	
1905-06	1	13	1	0	1	1	0	3	8	0	13	1	0	0	0	0	1	
1906-07	1	12	3	0	1	4	0	3	4	0	12	2	0	0	0	0	2	
1907-08	1	20	2	0	1	3	0	7	9	0	20	2	0	0	0	0	2	
1908-09	1	15	2	1	1	3	0	4	7	0	15	2	0	0	0	1	3	
1909-10	2	16	2	1	1	3	0	6	6	0	16	3	0	0	0	0	3	
1910-11	2	16	4	2	1	2	0	5	8	0	16	3	2	0	0	2	7	
1911-12	2	18	4	1	1	3	0	6	8	0	18	3	1	0	0	1	5	
1912-13	1	17	5	1	1	4	0	5	7	0	17	4	1	0	0	1	6	
1913-14	2	23	5	2	1	3	0	6	13	0	23	3	1	0	0	3	7	
1914-15	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	2	

第一次世界大戦のため1915年4月号で一旦休刊(4月号まであり) 1921年10月号から再開

1921-22	1	22	4	1	1	3	0	14	4	0	22	2	1	0	1	1	0	5
1922-23	3	27	7	1	1	5	0	10	11	0	27	3	4	0	0	1	0	8
1923-24	2	28	4	0	1	4	0	10	13	0	28	2	1	0	0	1	0	4
1924-25	3	36	8	0	1	5	0	14	16	0	36	3	3	0	0	2	0	8
1925-26	1	33	6	0	1	4	0	14	14	0	33	2	2	0	0	2	0	6
1926-27	2	36	9	1	1	6	0	16	13	0	36	4	3	0	0	3	0	10
1927-28	3	36	10	0	1	5	0	20	10	0	36	3	2	0	0	5	0	10
1928-29	3	41	10	0	1	4	1	20	14	1	41	3	2	0	0	5	0	10
1929-30	3	44	13	0	1	7	0	18	18	0	44	2	4	0	1	6	0	13
1930-31	0	44	11	1	1	5	0	20	18	0	44	6	2	0	0	4	0	12
1931-32	4	49	12	0	1	5	1	23	19	0	49	5	4	0	0	3	0	12
1932-33	5	53	12	1	1	1	4	24	23	0	53	4	4	0	0	5	0	13
1933-34	7	61	11	0	1	4	0	25	30	1	61	4	4	0	0	3	0	11

イングランド以外のエリアの大会とは、ネーションまたは国等で東西南北が付けられた大会を示す(例: East of Scotland Championships)。なお、アイルランドについては、東西南北が付けられた大会はなかったがアルスター支部大会をエリアの大会としてカウントした。

回目の大会の開催に向けて、更なる参加者拡大のために『バドミントンガゼット』に次のような投稿をしている。

「このシーズンに南イングランドのクラブが来てくれるのなら大歓迎です。私たちは初心者ばかりで、上達できるかどうか不安です。移動手段や宿泊など、どのような情報でも提供します。皆様を歓迎することをお約束します。」<sup>29)</sup>

イングランドの選手達は、アイルランドやスコットランドの大会にも参加していた。例えば、第1回アイルランド選手権大会(1902年)には、G・W・ビダルG. W. Vidal<sup>30)</sup>(クリスタルパレスクラブ)、L・U・ランスフォードL. U. Ransford(クリスタルパレスクラブ)、M・モズリーM. Moseley(イーリングクラブ)が<sup>31)</sup>、翌年の第2

回大会には、トマス卿、A・D・プレブルA. D. Prebble(クリスタルパレスクラブ)<sup>32)</sup>、ランスフォードが参加している<sup>33)</sup>。また、トマス卿は、第1回スコットランド選手権大会(1907年)にも参加している<sup>34)</sup>。このように、初期の国際的な交流は、活動の拡大によりネーションという境界を越えたというよりも、むしろネーションという境界に囚われない個人的な人脈を通じた交流の実態が先にあった。

最初にナショナル対抗戦が行われたのは、1903年のイングランド対アイルランド戦であった。1909年には、IBUからの要望であるアイルランド対スコットランド戦を全英選手権大会期間中に行うことが承認され、新たなナショナル対抗戦が始まった<sup>35)</sup>。こうしてイングランド対アイルランド、アイルランド対スコットランドという2つの

ナショナル対抗戦が、BAの運営により行われるようになった。

### 3. BA運営の変化

図1は、BAの加盟団体数の変化を示したものである。最初の年には14団体が加盟したが、1895/96年には7団体にまで落ち込んでいる。BA競技規則の浸透が1890年代末まで十分に進んでいなかったことから、各クラブがBAに加盟し、BA競技規則で活動するメリットを見出せなかった可能性が窺える。しかし、1901/02年には100団体を超え、1915/16年には500団体を超える程に増加した。これは、BA競技規則に基づくバドミントンの普及拡大と共に、選手権大会の増加やロンドンリーグの設立等、BAに加盟することにより活動の場が広がるというメリットが大きくなったことが要因と考えられる。BAへの加盟団体は、爆発的な増加を示すことはなかったが、徐々に、しかし着実にその数を増やした。なお、1910/11年のみ加盟団体数が減少しているが、その原因については明らかにすることができなかった。

拡大するバドミントン活動に伴い、BAの運営も変化していった。全英選手権大会の開催や各大会の日程調整のための委員会、ナショナル対抗戦のための委員会、ホール建設のための委員会等、執行委員会の下に個別の案件に対応する委員会が設置された。また、加盟手続きの変更として、1914年に各クラブがカウンティ協会を通してBAに加盟登録できることが承認された<sup>36)</sup>。これは、BA傘下に組織をおく統括の始まりとみられるが、カウンティ協会を経由する登録は強制ではなく、クラブがBAに加盟する場合、直接加盟することもカウンティ協会を経由して加盟することも可能であった。しかし、これによりカウンティ協会へ登録費を支払って加盟することで、BAへの加盟登録もできることになったのである。このことは、これまでBAとカウンティ協会にそれぞれ登録費を支払わなければならなかったことに対する不満を解消するための便宜的な変更であったと考えられる。そうした変更がなされたことは、各地にカウンティ協会が設立され、地域で自立的な活動が行われていたことを裏付けするものと言え

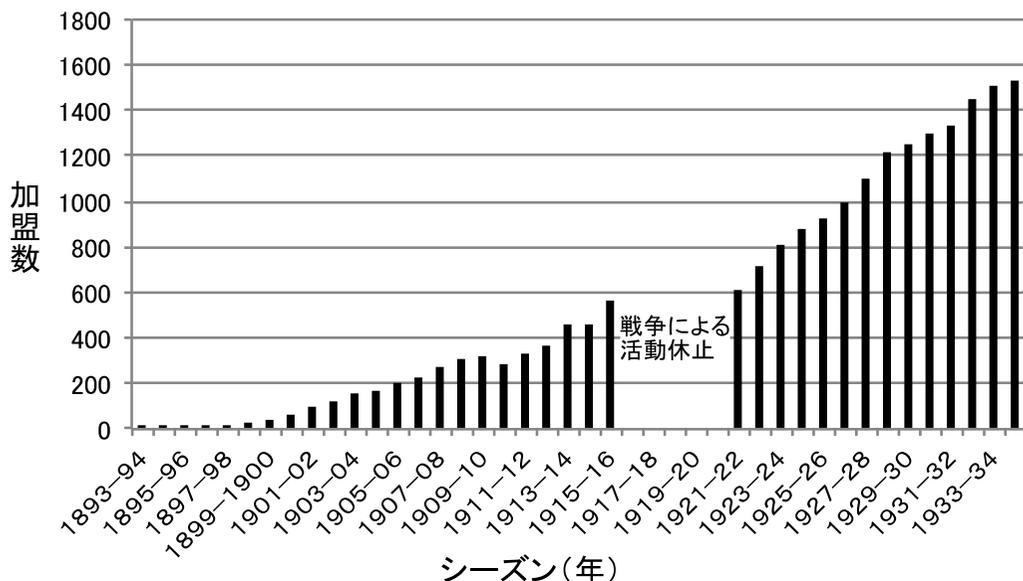


図1 BA加盟団体数の変化

1893/94年から1901/02年までの加盟数についてはLawn Tennis & Croquet, November 5, 1902より、1902/03年から1905/06年については、Lawn TennisおよびLawn Tennis & Badmintonより、1906/07年以降については、Badminton GazetteのOfficial Noticeに記載された加盟団体数により算出し鶴木が作図。

よう。

1914/15年は、戦争による影響のため、BA関連の委員会は3回しか行われなかった<sup>37)</sup>。1916年4月13日の特別総会で、「年次総会は、戦争が休止されるまでは開催しない。ただし、戦争中であっても開催が可能であると執行委員会が判断した場合はこの限りではない。」が承認され<sup>38)</sup>、BAは実質的な活動休止に入った。戦争の終結により、1920年1月5日の執行委員会からBAの活動は再開された。

次に加盟団体の地域の広がりについて見てみよう。BA設立時は、次のようにイングランド南西部のクラブに限られていた。すなわち、トーキー、ペイントン、テーンマス（以上デボンシャー）、サウスシー、サウスンプトン、サウスハント、フェアラム、リミントン（以上ハンプシャー）、ボグナー、チチェスター（以上サセックス）、バース、クリフトン（以上サマーセットシャー）、ワイト島、チャンネル諸島である<sup>39)</sup>。しかし、1897/98年にはアイルランド、続いて1901/02年にはスコットランド、1903/04年にはウェールズ、1910/11年にはフランス、アメリカ合衆国、カナダ、インドへと加盟団体は広がっていった<sup>40)</sup>。BAへの加盟団体は数の増加だけでなく、最初の10年でブリテン諸島各地へ広がり、続いてブリテン諸島を離れ地理的に大きな広がりを見せたのである。

BAの加盟団体の地理的な広がり、ブリテン諸島内のナショナル組織の設立の影響は、BAの運営メンバーの構成にも及んだ。1908/09年は、会長、副会長、事務局長の3名と、委員会メンバー9名中7名がイングランドのクラブから選出されている。残る2名のメンバーは、スコットランドのアバディーンクラブと、アイルランドのダンドラムクラブから選出され、IBU代表は執行委員会の特別メンバーとされた。1911/12年には特別メンバーであったIBU代表を正式メンバーとして迎え入れ<sup>41)</sup>、1912/13年にはスコットランドのクラブの立場で選出されていたメンバーがSBU代表としての立場に変更され<sup>42)</sup>、ナショナル組織に代表選出に関する権限が与えられた。こうした

変化は、BAという組織において、ナショナル組織というものが明確に位置づけられたことを示している。また、1909/10年にアイルランド対スコットランドの対抗戦がはじまり、ナショナル対抗戦の運営に新たな展開がみられたため、1910年の年次総会でトマス卿とE・ホーソンE. Hawthornの提案により、インターナショナルボードが設置されることが決定した。メンバーは、BA選出2名、アイルランド選出2名、スコットランド選出2名で構成され、ナショナル対抗戦の大会運営規程Regulation及び関連する全ての問題を取り扱う役割を担うことになった<sup>43)</sup>。この時点ではブリテン諸島内の動きではあるものの、各ナショナル組織から選出された代表によって構成された組織に権限が与えられたということは、イングランド主導によって運営されていたバドミントンにとって大きな変化であったと言える。

BAは、イングランドの外へ広がる加盟団体に対応する一方で、活発化したイングランド内の地域における活動とカウンティ組織の自立的な活動に対し、1921年12月、以下のようなカウンティ協会のための規約を定めた。

- ・クラブはカウンティ協会への加盟をもってBAへの加盟とする。
- ・カウンティ協会を設立する場合はBAに加盟しなければならない。
- ・カウンティ内に施設を有するクラブがBAへの加盟申請を行う場合、カウンティ協会の事務局長はBAへの申請書に連署すること。
- ・クラブ主催でクラブの施設を使用してカウンティに関するトーナメントを開催する場合、カウンティ協会の事務局長はBAへの申請書に連署すること。
- ・カウンティ協会設立後は、カウンティ選手権大会を行うこと。<sup>44)</sup>

BAへの加盟は元々、年次総会での承認による直接加盟のみであった。1914年、カウンティ協会を通じたBAへの加盟を認めることになったが、これはあくまでもクラブ側の支障や不満を解消するために認めたことである。しかし、この規約

が定められたことにより、BAに加盟するクラブは、当該クラブの所在するカウンティにカウンティ協会がある場合はその傘下に置かれ、またカウンティ協会はBAの傘下に置かれることが明確に示されたのである。

1923年の『バドミントンガゼット』2月号では、編集者のH・E・D・ポーコック H. E. D. Pocockから読者である加盟団体のメンバーに向けて、BAの役割について次のように説明されている。

「BA執行委員会は、バドミントンの競技規則及び協会規約を決定し、ハンドブックを発行します。BAは、カウンティ協会の設立において、細則Bye-lawsをおくことの自由は認めますが、それらが競技規則に従っていることを確認の上承認します。BAは、各トーナメントの日程を承認し、全英選手権大会の運営を行います。」<sup>45)</sup>

カウンティ協会規約が定められてから1年以上が過ぎたにもかかわらず、新たな運営に対する混乱の様子が窺えるが、BAはイングランドのナショナル組織としての明確な役割を、運営体系と共にBAの中に確立したと言える。

### 第三章 BAの国際的な機能の拡大とBA運営の変化

#### 1. 国際的な活動の拡大

イングランド、アイルランド、スコットランドで行われていたナショナル選手権大会は、1920年代後半以降、カナダ（1927年）、ウェールズ（1928年）、ニュージーランド（1931年）等でも開催されるようになった。表2は、IBF設立以前につくられたナショナル組織等の設立年を示したものである。イングランド、アイルランド、スコットランドの各ネーションにおける活発な活動と連動して、ブリテン諸島以外においてナショナル組織が設立され、自立的な運営が行われることに繋がった。

表3は、『バドミントンガゼット』へのブリテン諸島以外の地域に関する記事の掲載回数である

が、1920年代末から1930年代にかけて増加傾向を示している。記事では、その地域の活動状況や大会そして歴史等が紹介されており、ブリテン諸島以外でのバドミントン活動の広がりがわかる。また、こうした内容が『バドミントンガゼット』に掲載され広く発信されたことは、BAの国際的な機能が拡大した現れとも言える。

表4は、ナショナル対抗戦実施の推移を示したものである。戦後のナショナル対抗戦は、1922年1月のアイルランド対スコットランド戦で再開された。1922/23年からは、イングランド対スコットランド戦が始められ、更に1928年にウェールズバドミントンユニオン（Wales Badminton Union：以下WBUとする）が設立されたことにより、ブリテン諸島内4つのナショナル組織間での対抗戦が行われるようになった。それまでのナショナル対抗戦は、ほとんどの場合いずれかのナショナル選手権大会期間中に実施されていた。しかし、ナショナル対抗戦の数が増加したことは、これまでの運営に変更を迫ることになった。

運営に関する問題が表面化したのは1932/33年であった。スコットランド選手権大会期間中に行われるナショナル対抗戦で、ウェールズが要望したイングランド対ウェールズ戦を行うことができず、別日程で対抗戦が実施されることになったのである<sup>46)</sup>。その後、ウェールズの提案により、

表2 ナショナル組織等の設立年

設立年月	母体とされた ナショナル組織等の枠組み
1893年9月	イングランド
1899年11月	アイルランド
1911年4月	スコットランド
1921年12月	カナダ
1927年9月	ニュージーランド
1928年1月	ウェールズ
1929年	シンガポール
1930年1月	デンマーク
1931年	オランダ
1934年1月	香港

表3 バドミントンガゼットへのブリテン諸島以外に関する記事の掲載回数（1921-1934年）

シーズン	1921/22	1922/23	1923/24	1924/25	1925/26	1926/27	1927/28	1928/29	1929/30	1930/31	1931/32	1932/33	1933/34
件数	1	2	1	1	3	1	2	1	4	5	4	5	8

表4 インターナショナルマッチの開催日及び場所（BA公式機関誌より）

シーズン	開催数計	イングランドvアイルランド	イングランドvスコットランド	イングランドvウェールズ	アイルランドvスコットランド	アイルランドvウェールズ	スコットランドvウェールズ	デンマークvイングランド	デンマークvウェールズ
1899/1900	0								
1900/01	0								
1901/02	0								
1902/03	1	1903/1/31(ダブリン)*							
1903/04	1	1904/3/18(ロンドン)*							
1904/05	0								
1905/06	1	1906/3/(ロンドン)*							
1906/07	1	1907/3/6(ダブリン)							
1907/08	0	1908/3/5(ロンドン)*							
1908/09	1	1909/2/6(ダブリン)*							
1909/10	2	1910/3/4(ロンドン)*			1910/3/4(ロンドン)*				
1910/11	2	1911/2/4(ダブリン)*			1911/1/21(グラスゴー)*				
1911/12	2	1912/2/29(ロンドン)*			1912/2/3(ダブリン)*				
1912/13	1								
1913/14	2	1914/3/5(ロンドン)*			1914/1/31(ダブリン)*				
1914/15	0								

第一次世界大戦のため1915年4月号で一旦休刊(4月号まであり) 1921年10月号から再開

1921/22	1				1922/1(不明)				
1922/23	3	1923/3/9(ロンドン)*	1923/2(不明)		1923/3/9(ロンドン)*				
1923/24	2	1924/2(不明)			1924/2(不明)				
1924/25	3	1925/3/6(ロンドン)*	1925/2(不明)		1925/1/26-31(ウッドブリック)*				
1925/26	1				1926/1/15(グラスゴー)*				
1926/27	2	1927/3(不明)			1927/3(不明)				
1927/28	3	1928/2/3(ベルファースト)*	1928/3/9(ロンドン)*		1928/1/20(グラスゴー)*				
1928/29	3	1929/3/8(ロンドン)*		1929/2/25(ランダノー)*	1929/2/1(ベルファースト)				
1929/30	3	1930/2/7(ベルファースト)*	1930/3/7(不明)		1930/1/17(グラスゴー)*				
1930/31	0								
1931/32	4	1932/2/5(ダブリン)*			1932/1/8(グラスゴー)	1931/12/4(不明)*	1931/12/17(エジンバラ)		
1932/33	6	1933/1/18-21(グラスゴー)* 1933/3/10(ロンドン)		1932/12/2(クラッグサイド)	1933/3(不明)		1933/1/18-21(グラスゴー)*		
1933/34	7	1934/2/9(ダブリン)*	1934/3/9(ロンドン)*	1934/1/12(バーケンヘッド)	1934/1/19(グラスゴー)*		1933/12/8(ランダノー)*	1933/11/13,14(コペンハーゲン)	1934/4/14(不明)他の大会なし

日付は開催日。( )は実施場所。日付がないものは、開催月を掲載号及び文面から推定。

\*印は、ナショナル選手権大会期間中の開催と記載がある、または場所・日程から推定できた大会。

ウェールズ、アイルランド、スコットランド、イングランドの間のナショナル対抗戦は開催日程を決めた固定試合として実施されることになった<sup>47)</sup>。更に1933/34年には、デンマークを含むナショナル対抗戦が始められたことにより、BAの果たすナショナル組織間の交流に関する役割は、ブリテン諸島を超えることになった。

1925年、BAの新たな取組みとして、BA代表チーム初の公式海外遠征であるカナダ遠征が行われた。カナダバドミントン協会は、1921年にブリテン諸島以外で初めて設立されたナショナル組織である。実施されたエキシビションマッチはBAチームの圧勝に終わった<sup>48)</sup>。1930年、二度目の遠征が行われ、エキシビションマッチに加え2日間にわたり公式試合であるテストマッチが行われた。この時、優れたテニスプレイヤーでもあり、後にバドミントンのプロとしてアメリカで活動したJ・パーセルJ. Purcellという突出した選手がカナダチームに存在したことに加え、両日とも3,000人を超える観客動員数があり、更にクラブの充実した施設はBAチームのメンバーに大きな驚きを与えた<sup>49)</sup>。

この二度の遠征には、BAの運営に関わったトマス卿とホーソンが参加している<sup>50)</sup>。トマス卿は、カナダ遠征によってバドミントンの国際的な広がりや更なる可能性を強く感じ、二度目の遠征後に再版された著書の緒言に、以下のように加筆している。

「試合そのものは変わらずとも、国際的な感覚を持つことは意味のあることです。10年前、競技としてのバドミントンはブリテン諸島に独占されていました。現在はローンテニスのデビスカップと肩を並べるような国際試合を開催することも、たわいのない夢ではありません。」<sup>51)</sup>

カナダの充実したバドミントン活動は、トマス卿とホーソンを大いに触発し、BAひいてはその後の国際的なバドミントンの展開に影響を与えることになったと言っても過言ではない。

広がる国際交流は、BA主導の活動だけではな

かった。アイルランドのストローラーズバドミントンクラブは、R・M・マッカラム少佐Major R. M. McCallumがキャプテンを務め、数回にわたりブリテン諸島以外への遠征を行った。訪問先のデンマーク（1928年、1929年）、アイルランド（1929年）、大陸遠征（ベルギーとデンマーク、1930年）、フランス（1933年）、スカンジナビア（デンマークとスウェーデン、1934年）でエキシビションマッチやデモンストレーションを行う等、各都市でのバドミントンの普及に努め、親しい人脈を構築した。例えば、1928年のデンマーク遠征は、『バドミントンガゼット』で次の様に報告されている。

「500から600人の観客がいました。彼らは熱心で鑑賞力のある観客で、バドミントンのゲームのことをすぐに理解しました。最初に競技規則が簡単に説明され、その後プレイが行われました。（中略）試合後は心地よい夕食をとり、午前3時頃までダンスをしました。」<sup>52)</sup>

## 2. BAの意識に対する不満

BAは、国際的な交流を『バドミントンガゼット』で報告し、バドミントンの国際的な拡大を歓迎した。一方で、BAの意識に対する不満が顕在化するようになった。例えば、1933年にイングランド対デンマークの対抗戦のためにイングランドチームがデンマークを訪問したことについて、トマス卿が『バドミントンガゼット』に「BA後援による最初のデンマーク遠征」<sup>53)</sup>と書いたことに対し、すぐさまIBU事務局長のP・ディロンP. Dillonから反論の投稿がされている。

「これは最初のデンマークへの公式遠征ではありません。ストローラーズバドミントンクラブは1928年10月と1930年10月にドイツとデンマークに遠征しており、IBUによって公式に認められています。（中略）したがって、ストローラーズバドミントンクラブが先駆者であることは明らかです。」<sup>54)</sup>これに対してトマス卿は、次の様に応じている。

「最初の公式遠征としたのは、ナショナル組織の代表としての肩書きを与えたものという意味ですが、もし誤解を与えたとしたら残念に思います。」<sup>55)</sup>

トマス卿は、「BA後援による最初のデンマーク遠征」という言葉を使った記事の中で、ストローラーズバドミントンクラブの功績についても触れている。ディロンのいささか過剰とも思える口吻は、単に事実誤認を厳しく指摘して、BAの認識を正そうとしたものではないと思われる。IBUの諸活動に対して日頃からBAの認識不足や過小評価があり、それに不満を募らせていたIBUの関係者としての感情がここで一気に表出したとみるべきであろう。いまやナショナル組織がそれぞれ独自に活動を企画・推進するようになっていたにもかかわらず、BAが旧態依然のままイングランドを中心と見做す意識や感情を持ち続けたことに対して、ディロンは鋭く反応したのである。

こうした不満は、BAがイングランドのナショナル組織でありながら国際的な運営を行っていることから生じたものであり、BAの重層的な運営が困難に面し始めた現れの一つとみることができる。

### 3. BA運営の変化

図1からわかるように、BAへの加盟団体数は、1921/22年には戦前レベルを上回っている。更に1927/28年には1,000団体を超え、1933/34年には1,500団体を超える程に増加した。戦争による影響でBAの活動は休止されたが、ブリテン諸島内の地域の活動は継続可能な状況にあり、そのことがその後の加盟団体の着実な増加に繋がったとみられる。

また、1920年代後半に起こったナショナル組織の設立や国際的な交流の活発化は、ナショナル組織の自立の動きへと繋がり、BAの運営にも影響を及ぼした。1930/31年、ブリテン諸島以外のクラブに関する運営について、「ブリテン諸島以外で国等を統括する組織がある所は、その組織を通

してBAへ加盟すること。」<sup>56)</sup>が決められた。このような動きは、ナショナル組織を加盟団体としてBA傘下におく加盟形態の変更へと繋がっていった。更に、BA副会長は、設立以来加盟団体から個人が選出されていたが、1929年にIBUとSBUの会長をBA副会長に加えることが決定された<sup>57)</sup>。それ以前もイングランド以外のクラブに所属する副会長はいたが、IBUとSBUというナショナル組織の会長が必ずBA副会長に就任することになったのは大きな変更であると言える。これは、BAの運営がイングランド中心に偏らないための変更であると考えられるが、それだけBAの運営においてイングランド以外のナショナル組織の存在が大きくなっていったことがわかる。

このように、拡大するバドミントン活動の状況に対応しながら運営を続けたBAであるが、1933年に以下の加盟団体の構成及び加盟方法が承認され、BAへの加盟形態において大きな変更が示された。

#### 【加盟団体の構成】

①IBU、②SBU、③WBU、④イングランドのカウンティ協会、⑤大英帝国の海外の協会⑥海外の国等の協会、⑦上記以外

#### 【加盟方法】

##### (1) BAへの直接加盟

①カウンティ協会によってカバーされていないイングランドの地域

②イングランド、アイルランド、スコットランド、ウェールズ以外の国等で、それらをカバーする協会がない地域

(2) カウンティ協会があるイングランド内の地域はカウンティ協会を經由

(3) アイルランド内は、アイルランドバドミントンユニオンを經由

(4) スコットランド内は、スコットランドバドミントンユニオンを經由

(5) ウェールズ内は、ウェールズバドミントンユニオンを經由

(6) イングランド、アイルランド、スコットランド、ウェールズ以外の国等で、それらをカ

バーする加盟協会がある場合は、その協会を経由<sup>58)</sup>

BA競技規則によるバドミントン活動の普及を目的としたBAは、その目的の達成に向かうことを歓迎する一方で、様々な加盟団体を抱え、それに伴い生じる支障や不満に対して対応しながら運営をするという道歩んできた。しかし、イングランドのナショナル組織と国際的な運営組織という各々の役割が大きくなったことにより、その立場をBAの組織上に明確に位置づける必要に迫られることになったのである。図2は、対応策として行われた加盟方法の変更により生じたBAへの加盟形態の変化を示したものである。1933年、BAの加盟団体構成及び加盟方法が協会規約として承認された。これにより、BAは、カウンティ協会をBA傘下におくイングランドのナショナル組織であると同時に、ナショナル組織をBA傘下におく国際的な運営組織であることを、運営体系の確立をもって明示したのである。

## おわりに

本研究では、BAの設立から、IBFが設立されBAが担っていた国際的な機能を移管するまでの時期における、BAの役割と組織の在り方の変容

について考察してきた。

BAは、1893年、イングランド南西部のクラブにより、ローカルルールで行われていたバドミントンの競技規則を統一し、バドミントンを普及させることを目的として設立された。BAへの加盟団体は、BA競技規則によるバドミントンの活動が活発化したことにより増加した。イングランド内においては、地域における自立的な活動が行われるようになり、カウンティ協会を通してBAに加盟することが可能になった。これにより、BAのイングランドのナショナル組織としての実質的な役割が確立した。1921年には、BAによりカウンティ協会規約が制定され、イングランドのナショナル組織としての運営体系が明示された。もちろん、規約が定められるまで、BAはイングランドのナショナル組織として役割を果たしているということを自覚していなかったわけではない。カウンティ協会の自立的運営をBAが取り込んだが故に、イングランドのナショナル組織としての役割がより重要になり、BAとカウンティ協会の関係性と役割を規約として明確に示さねばならない時期がきたのである。

他方、BAへの加盟団体は、イングランドを超えて広がっていった。BA運営初期においては、

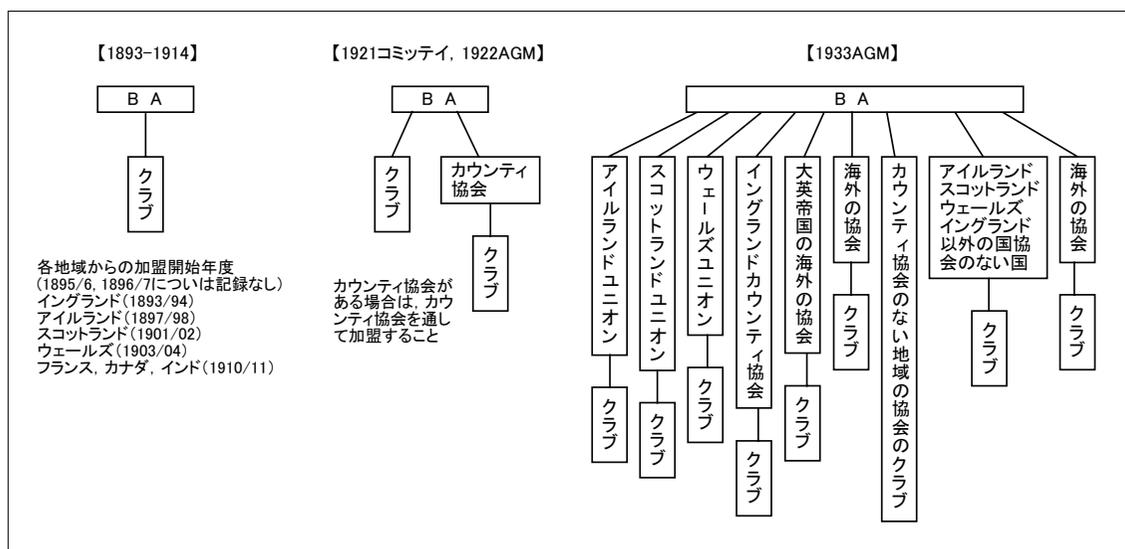


図2 BA加盟形態の変化 (鷗木作図)

ネーションという境界に囚われない個人的な人脈を通じた交流の実態が先にあった。1899年、BA競技規則及び規約を遵守した上で細則をもつことができるナショナル組織としてIBUが設立された。それにより、1903年にはイングランドとアイルランドの間でナショナル対抗戦が行われるようになったが、1920年代まではブリテン諸島内に限られたものであった。1920年代後半になると、ブリテン諸島以外においてもナショナル組織が設立され、ブリテン諸島を超えた国際的な交流をBAが運営することになった。これにより、BAが実質的に国際的な組織としての役割も担うようになった。

拡大するイングランド内の活動や国際的な交流、そして加盟団体が数や地域の拡大だけでなくクラブのみであったものがカウンティ協会やナショナル組織のように質的に変化したことは、BAがイングランドのナショナル組織であると同時に国際的な運営組織であるという二重の役割において、各々の機能を拡大させることになったのである。BAは、運営する中で出現する支障や不満は、実態に添うように協会規約を修正する等の「工夫」を重ねることにより対応した。しかし、支障や不満を解消させた結果、BAがイングランドのナショナル組織であり、国際的な運営を担う国際競技連盟とも言える組織であることが明るみになっていった。それにより、更なる矛盾と、その矛盾から生じる不満を抱えるようになったのである。そうしたBAは、もはや初期の「目的」で束ねるだけの「任意団体」ではなくなっていた。1933年には、これまでの運営の実態を運営体系として協会規約に明示することになったのである。

以上のように、競技規則を統一し、バドミントンを広く普及させるためにイングランド南西部のクラブによって設立されたBAは、BA競技規則によるバドミントンの活動が拡大した結果、カウンティ協会を傘下におくイングランドのナショナル組織とナショナル組織を連合する国際的な運営組織の二つの役割を担う組織へと変容したのである。

## 注および引用・参考文献

- 1) 国際バドミントン連盟は、2006年9月に世界バドミントン連盟 (Badminton World Federation) に名称変更された。
- 2) *Minutes of the Inaugural Meeting of IBF*, Jul. 5, 1934.
- 3) 2006年にラリーポイント制の導入等の大幅な競技規則の変更がされた。蘭が言う「現在のよ様な競技規則」とは、2006年に改訂される以前の競技規則を指す。
- 4) 蘭和真、バドミントンの初期の歴史に関する一考察、東海学院大学紀要4、2010年、11-17頁。
- 5) S. M. Massey, *Badminton*, G. Bell & Sons, Ltd., 1911.
- 6) Betty Uber, *That Badminton Racket*, Hutchinson's Library of Sports and Pastimes, 1949. Pat Davis, *Guinness Book of Badminton*, Guinness Superlatives Limited, 1983. Bernard Adams, *Badminton Story*, BBC, 1980.
- 7) Jean-Yves Guillain, *Badminton : An Illustrated History*, Publibook, 2004.
- 8) BA執行委員会及び年次総会の議事録は、1907年2月7日以降について、現在のイングランドのナショナル組織であるバドミントンイングランドのバドミントンミュージアムに保管されている。(2015年7月筆者取得)
- 9) BA最初の公式機関誌は*Lawn Tennis*であり、1899年12月6日からバドミントンに関する記事掲載が始められた。1899年から1920年までの発行誌はバドミントンミュージアムに保管されている。名称は、*Lawn Tennis* (1899年12月6日-1902年4月30日)、*Lawn Tennis and Croquet* (1902年11月5日-1905年4月5日)、*Lawn Tennis and Badminton* (1905年4月19日-1920年3月18日)と変更されている。1907年11月号からは、BA発行の*Badminton Gazette*が公式機

- 関誌とされ、バドミントンイングランドのバドミントンミュージアムに保管されている。  
(2015年7月筆者取得)
- 10) BA議事録においてはCountryを使用している。以下、史料原文においてCountryが使用されている場合、国等と表記する。
  - 11) Guillain, *op. cit.*, p.55.
  - 12) *Laws of Badminton and the Rules of the Badminton Association*, 1898.
  - 13) *Laws of Badminton and the Rules of the Badminton Association*, 1902-03.
  - 14) Massey, *op. cit.*, p.3.
  - 15) *Ibid.*, pp.3-4.
  - 16) *Ibid.*, p.4.
  - 17) *Lawn Tennis*, Apr. 4, 1900, p.501.
  - 18) *Lawn Tennis and Croquet*, Apr. 22, 1903, p.12, *Lawn Tennis and Badminton*, Apr. 4, 1906, p.528.
  - 19) Massey, *op. cit.*, pp. 4-5.
  - 20) *Badminton Gazette*, Nov., 1908, pp. 10-12, Oct., 1913, pp.16-18, Nov., 1932, p. 10.
  - 21) BA事務局長及び財務担当(1928-34年)、IBF事務局長及び財務担当(1934-37年)を務めた。
  - 22) S. M. Massey, *op. cit.*, p. 12.
  - 23) 『バドミントンガゼット』は、1915年3月号発行の後、1921年10月号まで発行されていない。
  - 24) Guillain, *op. cit.*, p.55.
  - 25) *The Rules and Bye-Laws of the Irish Badminton Union*, 1902-03.
  - 26) Guillain, *op. cit.*, p.55.
  - 27) BA(1934年よりイングランドバドミントン協会:BAEとなった)副会長(1930-50年)、BAE会長(1950-52年)、IBF会長(1934-55年)を務めた。
  - 28) *Badminton Gazette*, Jan., 1909, pp. 8-10.
  - 29) *Badminton Gazette*, Nov., 1909, p. 13.
  - 30) BA事務局長及び財務担当(1902-07年)を務めた。
  - 31) *Lawn Tennis*, Mar. 5, 1902, pp.534-535.
  - 32) BA副会長(1925-34年)を務めた。
  - 33) *Lawn Tennis and Croquet*, Mar. 4, 1903, p. 584.
  - 34) *Lawn Tennis and Badminton*, Feb. 6, 1907, p. 572.
  - 35) *Minutes of Meeting of the Committee of the Badminton Association*, Nov. 12, 1909.
  - 36) *Minutes of AGM of the Badminton Association*, Mar. 5, 1914.
  - 37) *Minutes of AGM of the Badminton Association*, Mar. 11, 1915.
  - 38) *Minutes of SGM of the Badminton Association*, Apr. 13, 1916.
  - 39) *Lawn Tennis*, Feb. 7, 1900, p.470.
  - 40) *Badminton Association Handbook*, 1898/99, 1903/04, 1910/11. 1894/95年から1896/97年までの加盟団体は記載がないため詳細は不明。
  - 41) *Minutes of AGM of the Badminton Association*, Feb. 23, 1911.
  - 42) *Minutes of AGM of the Badminton Association*, Feb. 29, 1912.
  - 43) *Minutes of AGM of the Badminton Association*, Mar. 3, 1910.
  - 44) *Minutes of Meeting of the Committee of the Badminton Association*, Dec. 5, 1921, *Minutes of AGM of the Badminton Association*, Mar. 9, 1922. 1921年12月5日執行委員会で承認された後すぐに運営に取り入れられ、1922年年次総会で追認された。
  - 45) *Badminton Gazette*, Feb., 1923, p. 89.
  - 46) *Minutes of Meeting of the Committee of the Badminton Association*, Sep. 14, 1932, Jun 7, 1933.
  - 47) *Ibid.*
  - 48) *Badminton Gazette*, Feb., 1926, p. 73.
  - 49) *Badminton Gazette*, Jan., 1931, pp. 57-58.
  - 50) 共に1925年はBA執行委員会メンバー、1930年はBA副会長を務めていた。

- 51) George Alan Thomas Bart., *The Art of Badminton* 4<sup>th</sup> Edition, Hutchinson & Co. Ltd., 1932, p.13.
- 52) *Badminton Gazette*, Dec., 1928, p. 31.
- 53) *Badminton Gazette*, Dec., 1933, p. 28.
- 54) *Badminton Gazette*, Jan., 1934, p. 51.
- 55) *Ibid.*
- 56) *Minutes of AGM of the Badminton Association*, Mar. 5, 1931.
- 57) *Minutes of the Badminton Association*, Mar. 7, 1929.
- 58) *Minutes of AGM of the Badminton Association*, Mar. 9, 1933.